5　　物忘れの嘆き　　　　　　　　　　動詞②　上二段・下二段活用

漢文の中にとみにたづぬべきことありて、思ひめぐらすに、その書とばかりはＡほのかにおぼえながら、いづれの巻のＢあたりといふこと、さらにおぼえねば、ただ心あてにここかしことたづぬれど、え見いでず。さりとていとあまたある巻巻を初めよりたづねアもてゆかむには、いみじくいとまイいりぬべければ、さもえものせず、つひにむなしくて止みぬるがいと口惜しきままに、思ひつづけける。

Ｘ　ふみ見つる跡も夏野の忘れ草老いてはいとど茂りそひつつ

もとより物おぼゆること、いと乏しかりけるを、このＣ近き年ごろとなりては、いとど何事も、ただ今ウ見聞きつるをだに、Ｄやがて忘れがちなるＥは、いといといふかひなきわざになむ。

【本文チェック】

①　ア～ウの動詞の、文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　　　形）　　イ（　　　　　形）　　ウ（　　　　　形）

②□Ａ～Ｅの語の品詞を書きなさい。

　Ａ（　　　　　詞）　　Ｂ（　　　　　詞）　　Ｃ（　　　　　詞）

　Ｄ（　　　　　詞）　　Ｅ（　　　　　詞）

③和歌Ｘを五七五七七に ｜ で区切りなさい。

　ふ み 見 つ る 跡 も 夏 野 の 忘 れ 草 老 い て は い と ど 茂 り そ ひ つ つ

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　漢文〔１〕（　　　　　　　）

２　書〔１〕 （　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　とみに〔１〕　（　　　　　　　　　）

２　たづぬ〔１〕　①（　　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　②問う　　③訪問する

３　口惜し〔４〕　①（　　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　②もの足りない

問３　次の傍線部の意味として、現代語訳に入る最も適当なものを選べ。

１　この男の顔見し心地す。誰とはえおぼえず。（源氏物語）

　　この男の顔は見たという気がする。ただ、誰であるとは（　　　）ことができない。

　ア　判別する　　　イ　思い出す

　ウ　申し上げる　　エ　証明する

　（　　　）

２　、御心地いとど重りて、頼もしげなきよしを世に申す。（栄花物語）

　　堀河殿（＝藤原）は、ご病状が（　　　）重くなって、望みがない事の次第を世間では申し上げる。

　ア　ほどほどに　　イ　少し

　ウ　いろいろ　　　エ　いっそう

　（　　　）

３　明けぬといふなれば、やがてよりりぬ。（蜻蛉日記）

　　夜が明けたという声がするので、（　　　）御堂から下りた。

　ア　そのまま　　イ　すぐに

　ウ　しだいに　　エ　しばらくして

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 落つ | 出づ | 植う | ゆ | 基本形 |
|  |  |  |  | 語幹 |
|  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
|  |  |  |  | 活用の行・種類 |

問５　次の傍線部の動詞の終止形と、文中での活用形を答えよ。

１　「には、いみじくとく起きよ。」（落窪物語）

　　　終止形（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　重くいましめむとて、召すなりけり。（宇治拾遺物語）

　　　終止形（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　を修行し、機を助くれば、（沙石集）

　　　終止形（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【探究】

問６　『玉勝間』の作者の本居宣長は、自分の物忘れについて嘆いているが、大事なことを忘れないようにするために、あなたならどのような工夫をするか。

ア　書き出してまとめる。

イ　頭の中で映像化する。

ウ　何度も繰り返して口に出す。

（理由　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝未然　イ＝連用　ウ＝連用

②　Ａ＝形容動　Ｂ＝名　Ｃ＝形容　Ｄ＝副　Ｅ＝助

③　ふみ見つる ｜ 跡も夏野の ｜ 忘れ草 ｜ 老いてはいとど ｜ 茂りそひつつ

問１　１＝からぶみ　２＝ふみ

問２　１＝急に　２＝探し求める　３＝残念だ

問３　１＝イ　２＝エ　３＝イ

問４　（悔ゆ） 悔 ｜ い ｜ い ｜ ゆ ｜ ゆる ｜ ゆれ ｜ いよ ｜ ヤ行上二段活用

　　　（植う） 植 ｜ ゑ ｜ ゑ ｜ う ｜ うる ｜ うれ ｜ ゑよ ｜ ワ行下二段活用

　　　（出づ） 出 ｜ で ｜ で ｜ づ ｜ づる ｜ づれ ｜ でよ ｜ ダ行下二段活用

　　　（落つ） 落 ｜ ち ｜ ち ｜ つ ｜ つる ｜ つれ ｜ ちよ ｜ タ行上二段活用

問５　１＝起く・命令形　２＝いましむ・未然形　３＝助く・已然形

問６　（例）ア　書いてまとめるという行為によって、自分なりに重要な部分の整理ができ、定着がよくなるから。また、たとえ忘れてしまっても、メモがあればそれを見ればよいから。

　　観点　学習する際に、自分なりに工夫していることを考えてみる。忘れてしまう場合に備えることも考えるとよい。

【現代語訳】

問３　１　この男の顔は見たという気がする。ただ、誰であるとは思い出すことができない。

　　　２　堀河殿（＝藤原）は、ご病状がいっそう重くなって、望みがない事の次第を世間では申し上げる。

　　　３　夜が明けたという声がするので、すぐに御堂から下りた。

問５　１　「夜明けには、特に早く起きろ。」

　　　２　重く戒めようと思って、お呼びになるのであった。

　　　３　小欲知足を実践して、自分の能力をささえると、